

伊豆の国市観光基本計画 アクションプラン（後期）

令和3年度⇒令和6年度

基本方針—伊豆の国市観光基本計画 一平成27年度～令和6年度一

毎日が魅力あるまち“おもてなしの伊豆の国”

アクションプランの策定にあたって

本プランは、平成27年3月に策定した伊豆の国市観光基本計画の取り組みによる地域活性化を実現するため、重点的に行う取り組みの概要、実施主体等を明らかにし、市民によるおもてなしのまちづくり施策等の実施により、観光交流人口の拡大と宿泊者数の増加を目指します。

なお、このアクションプランは、毎年進捗状況を確認し、必要に応じて見直しを行います。

目標（指標）

単位：千人

評価指標名	現状値		前期目標値	総合戦略目標値	総合戦略アクションプラン目標値
	H30	R1	R2	R3	R6
観光交流客数	2,110	1,930	2,800	2,130	2,160
宿泊客数 (宿泊施設数)	705 (52軒)	662 (50軒)	—	481	675

総合計画：第2次伊豆の国市総合計画 平成29年3月

総合戦略：第2期伊豆の国市まち・ひと・しごと創生総合戦略 令和2年3月

- ※ 令和2年1月以降、新型コロナウイルス感染症（以下、「コロナ」という。）拡大の影響で、観光需要は大きく落ち込み、観光業者のみならず関連事業者まで幅広い分野への影響が出ています。未だコロナの収束が見えない中、先の見通しが難しくなっていますが、上位計画である総合計画や総合戦略との整合性を図りつつ、社会情勢に応じた修正をしながら目標数値を設定していきます。
- ※ 宿泊客数については、アクションプラン独自の目標値であり、厳しい社会経済情勢の中、対象となる宿泊施設数（収容者数）によっても大きく変化するため、毎年度の対象宿泊施設数も参考にしていきます。



蘿山反射炉PRキャラクターてつざもん

1 観光まちづくりの推進

●現状と課題

平成 28 年度に伊豆の国市観光まちづくり協議会が設立され、この組織のメンバーを中心に、平成 29 年度から「伊豆の国ふるさと博覧会」を計 3 回開催（令和 2 年度はコロナにより中止）しました。伊豆の国ふるさと博覧会には、市内の様々な活動をしている個人や団体等が多数参加し、伊豆の国市の地域資源である「ヒト・コト・モノ」の掘り起こし、市内の魅力の再発見につながりました。実施したプログラムの中からは、旅行商品として（一社）伊豆の国市観光協会（以下、「観光協会」という。）が販売する商品も出てきました。令和 2 年度には、観光まちづくりの取り組みを深化させていくため、「伊豆の国市おんぱく実行委員会」から「ひとつなぎ伊豆の国。」に名称を変えて新たなスタートをききました。

しかしながら、観光交流客や宿泊客の全体数は年々減少傾向であり、滞在型観光における魅力創出が大きな課題となっています。今後は、当市ならではのオリジナルあふれる魅力を発信し、リピーターにつなげられるような観光商品の開発を行い、宿泊につなげていく必要があります。

① 「観光まちづくり」の体制強化

伊豆の国市観光戦略会議の在り方を見直し、より実践に結びつくよう市内観光関連団体からメンバーを選定し、観光まちづくりの推進に努めます。また、静岡デスティネーションキャンペーン事業（以下、「DC 事業」という。）を契機に強化された市内各種団体との連携を深め、観光まちづくり、市内周遊の仕組みづくりに取り組みます。

また、大河ドラマ「鎌倉殿の 13 人」伊豆の国市推進協議会と連携し、歴史・文化遺産等を活用しながら、観光振興のみならず幅広い分野への振興に結び付け、地域の活性化を図ります。

② 着地型商品の造成と販売

観光協会では、観光産業の発展による地域の活性化及び観光まちづくりの推進を図るために、地域資源を活用した旅行商品の販路を開拓し、平成 28 年度に第 3 種旅行業の登録を行いました。今後は、2022 年大河ドラマ「鎌倉殿の 13 人」の放映を契機に、宿泊につながるよう歴史遺産も活用した旅行商品の造成と販売体制を確立するとともに、積極的に外部への発信を行います。

③ 地域おこし協力隊の活用

令和 3 年 3 月末現在で、2 名の地域おこし協力隊員が観光協会の事務所を拠点に活動し、地域資源を活用した商品開発、情報発信、観光イベント等への参画や協力等を行っています。今後は、地域との連携をさらに強化し、伊豆長岡温泉の活性化を目的とするプラットフォーム「伊豆長岡温泉ミライ会議」等との連携を進め、隊員任期終了後も、地域で継続して活動できるよう支援していきます。

④ ひとつなぎ伊豆の国。による観光まちづくり

誰もが自慢できるわがまちを主眼に、各団体・事業所・地域等のつながりを築きながら、伊豆の国ふるさと博覧会の開催や地域資源を活用したイベントの実施、地域の魅力を発信していきます。その中で、地域資源を活用した体験プログラムやパートナー（プログラム実施者）同士を結び付け、横のつながりを強化することにより、新たな魅力づくり、にぎわいづくりを目指します。

⑤ 道の駅等を活用した観光客と市民との交流の場の創出

道の駅「伊豆のへそ」は、平成 30 年 11 月のリニューアルオープン後、来場者数が増加しています。三密を避けた交流活動ができる温室スペースの特徴をいかし、子どもから高齢

者、子育て中の方々の居場所や活動場所として活用するなど、観光客と市民の地域交流の場を創出していきます。また、伊豆の国市かわまちづくり計画(令和2年1月策定)(以下、「かわまちづくり計画」という。)とも連携し、観光交流人口の増加とにぎわいを創出します。

⑥ 市民と連携した情報発信の強化

市ホームページやSNSを活用し、観光・イベント情報、地域のタイムリーな情報の発信に努めます。また、市民向けSNS活用講座等を開催し、地域の魅力を自ら発信できる市民を増やします。

⑦ 花と緑によるおもてなしの推進

「花咲く伊豆の国推進協議会」の活動を中心に、観光関係諸団体と連携して、地域の公共花壇をモデル花壇として整備するとともに、国道414号沿いをマーガレット街道として継続して整備していきます。また、花飾り教室等を開催し、花に携わるボランティアを育成し、花と緑による潤いと安らぎのあるおもてなしのまち「伊豆の国市」を市内外に発信します。

2 官民連携による伊豆長岡温泉の活性化

●現状と課題

鎌倉時代から続く古奈温泉と、明治以降に開湯した長岡温泉の2つを合わせて伊豆長岡温泉と呼ばれ、かつては多くの文豪にも愛された温泉地であり、現在も当市の観光振興の要となっています。しかし、近年は、宿泊客数は右肩下がりで減少し、温泉街には、廃業した旅館や空き店舗が点在し、温泉街としての景観も失われつつあります。

このような中、平成27年度に市民によるおもてなしのワークショップの中で温泉街の賑わいを取り戻そうと「朝市」が計画されました。今では、「温泉場お散歩市」として、毎月第2日曜日に定期開催され、令和3年3月で5年目を迎えました。平成30、令和元年度には夜市も計6回開催され、定例イベントとして市内外に認識されるようになってきました。

伊豆長岡温泉場通り振興会を母体としたこの活動は、令和2年度には、国土交通省の「官民連携まちなか再生推進事業」の採択を受け、市内宿泊施設、企業等を巻き込み「伊豆長岡温泉ミライ会議」としてエリアプラットフォームに認定、「温泉のある暮らし」をテーマに伊豆長岡温泉の未来ビジョンを策定し、令和3年度から、法人化を目指して運営を開始します。

また、伊豆長岡温泉旅館協同組合女性部では、環境・福祉・観光が連携した古紙回収事業の実施や古奈もみじ公園へのあじさい植栽など、活動の幅を広げています。

今後は、市も参画している「伊豆長岡温泉ミライ会議」の取り組みについて、参画者を増やしながら自立した活動につなげていきます。

また、温泉場通りのにぎわいを創出するため、長岡温泉と古奈温泉をつなぐ源氏山公園、旧南山荘や温泉街の空き店舗の活用が課題となっています。

この伊豆長岡温泉の取り組みが拠点の一つとなり、市内の歴史文化や観光農業、自然アクティビティのエリアと連携した周遊の取り組みへつなげ、民間事業者や連携する各種団体の活動を市がサポートする形で、市内観光の活性化と、富士箱根伊豆国立公園を意識し、周辺自治体と連携した広域観光に向けた関係構築・機運醸成が求められています。

① 伊豆長岡温泉ミライ会議への支援

伊豆長岡温泉ミライ会議が参画企業団体を増やし、自立した活動ができるよう支援しています。また、温泉場お散歩市や夜市の開催場所(エリア)の拡大や警察と連携した交通規制による道路空間の活用等を進め、来場者が楽しめて滞在できる伊豆長岡温泉場を目指します。

② 温泉街の整備と温泉街周辺公園の活用

花壇の植栽や温泉街の雰囲気にあった温かみのある街路灯の設置などにより、観光客や市民が歩いて楽しむことのできる、そぞろ歩きの似合う温泉街の雰囲気づくりに努めます。また、空き店舗・休業・廃業旅館の空き施設等を活用し、観光客と地域住民の交流の場となるよう活用を検討していきます。

また、長岡温泉と古奈温泉をつなぐ源氏山公園、芝生広場のある古奈もみじ公園、市内外からの利用者も多い足湯を有する湯らっくす公園や古奈湯元公園など、温泉街周辺には市民にも観光客にも親しまれている公園が多数点在します。これらの公園を活用したミニイベントを開催し、市民も観光客も楽しめる場の創出に努めます。

③ 温泉駅とその周辺地域のにぎわいの創出

温泉駅管理者である伊豆箱根鉄道㈱との連携を図り、温泉街の入り口である温泉駅バスターミナルを活用した観光情報の発信、宿泊客・地域住民向け E-bike の貸出、Book カフェなど、観光客のみならず地域住民や順天堂大学医学部附属静岡病院の来院者をターゲットにして、にぎわいを創出していきます。

④ 都市と地方の人材交流

伊豆長岡温泉ミライ会議主催の地域課題解決型プロジェクトゼミ「伊豆長岡温泉ミライ大学(仮称)」などの開催を通じて、温泉場活性化に携わる地元住民、ボランティアと、首都圏在住の若者との交流の場を創出し、伊豆長岡温泉の魅力発信を行うとともに、関係人口の創出に努めます。

⑤ ワーケーションへの取り組み

仕事と余暇を組み合わせた新しい働き方「ワーケーション」が注目されています。ワーケーションを希望する人の働く場としての宿泊施設の活用が進むよう、施設環境整備を支援するとともに、マッチングができるような体制を検討していきます。

⑥ 市内の官民連携の観光誘客・まちづくりとの連携推進

歴史遺産や自然環境の豊かな資源を活用した、官民連携による観光誘客・まちづくりと連携し、人材やノウハウの共有、連携したイベントや事業による滞在型観光、体験型観光の推進を図ります。

3 歴史文化遺産の活用

●現状と課題

平成 27 年 7 月、鋤山反射炉が「明治日本の産業革命遺産」の構成資産の一つとして世界文化遺産に登録されました。これに伴い、平成 27 年度は鋤山反射炉に約 72 万 6 千人、江川邸に約 7 万 8 千人の来訪者がいましたが、この観光客を宿泊や市内飲食店への誘導ができず、翌年度以降は来訪者も減少し、令和元年度には鋤山反射炉の来訪者も約 18 万人まで減少しています。

DC 事業で行ったアンケートでも、市内外の方ともに、伊豆の国市は「鋤山反射炉」や「歴史」のまちというイメージがついており、認知度が高い地域資源を地域のブランドの核として積極的に活用する必要があります。

今後は、鋤山反射炉を世界に誇るべき文化遺産として後世に継承することはもちろんのこと、その歴史や価値、魅力などを広めるため、発掘調査、補修工事なども可能な範囲で公開し、ニュースや来訪者の SNS 等で外部発信されるよう促進していきます。

また、令和 4 年 1 月には、当市出身の北条義時を主人公にした、大河ドラマ「鎌倉殿の 13 人」の放映が決定し、令和 2 年 7 月に大河ドラマ「鎌倉殿の 13 人」伊豆の国市推進協議会が設立されました。北条義時夫妻の墓を有する北條寺や、北条時政が建立し仏師運慶による国宝 5 体の仏像を有する願成就院をはじめ、大河ドラマゆかりの地を広く

発信するとともに、観光周遊バス（歴バスのる～ら）を運行し、垂山反射炉や江川邸等を含めて回遊性を高める取り組みを進めていく必要があります。

① 垂山反射炉周辺の魅力強化

市の歴史的・文化的シンボルとして、また地域振興や情報発信拠点としての役割を担う垂山反射炉やガイダンスセンター、芝生広場を活用し、講座や催し物等を開催します。また、見学機会の拡大を図るため、桜の開花やホタルの発生時期等にあわせて、垂山反射炉のライタップを実施するなど、垂山反射炉を異なる視点からもPRしていきます。

② 大河ドラマを契機とした新たな歴史遺産の発掘と活用

当市出身の北条義時を主人公とした2022年大河ドラマ「鎌倉殿の13人」放映を契機に、北條寺、願成就院などの北条義時ゆかりの地を新しい歴史遺産として発信するとともに、ゆかりの地への周遊を促すため、史跡解説板や観光案内板の新設・リニューアルを実施します。また、地域住民と連携して、北条義時やその一族等のPRに努めます。

③ 歴史ガイド・外国語ガイドの充実

伊豆の国歴史ガイドの会や伊豆の国外語ガイドの会と連携し、垂山反射炉や江川邸以外にも北条義時にゆかりのある市内史跡等のガイドを行い、利用者ニーズに応じた案内・解説の充実を図ります。また、地域の観光資源に精通した「おもてなし入材」の充実を図るため、新たな人材の発掘やガイド養成講座等を開催します。

④ 垂山反射炉、江川邸等歴史遺産を活用した観光周遊型のまちづくり

観光周遊バス「歴バスのる～ら」の運行ルートを見直し、垂山反射炉や江川邸以外にも北条義時ゆかりの地である名所等も含めたルートを検討し、観光客の回遊性を高めます。また、北条氏ゆかりの地や寺院の花など、テーマごとの周遊ルートを構築していきます。

4 スポーツツーリズムの推進

●現状と課題

令和2年7月に、2020東京オリンピック・パラリンピック（以下、「オリ・パラ」という。）における自転車競技の開催地が隣接市に決定されましたが、コロナの影響で1年延期となりました。これを受け、当市で予定していたオリンピックに向けたモンゴル国柔道ナショナルチームの合宿をはじめ、各種スポーツイベント等も中止されています。今後、スポーツイベントの開催には、感染症対策を実施し新しい生活様式に即したイベント開催が求められています。

また、市内には自転車ブランドMERIDAの世界最大規模の展示・試乗施設「MERIDA X BASE」やコナサイクルなど、E-bike等を所有するレンタサイクル施設ができました。オリンピックを契機として盛り上がっているサイクリング熱を、オリンピックレガシーとして残せるよう、官民連携した取り組みが必要です。

温暖な気候と自然環境を生かした、コロナ禍でも楽しめるアウトドアやスポーツツーリズムの推進が注目されています。

① 官民連携した自転車を活用した取り組み

市内の自転車に関連する事業所と連携し、サイクリングなどを中心としたスポーツ・アウトドアクエベティと、かわまちづくり計画や宿泊を連携させた取り組みを推進します。また、名所旧跡とサイクリングが楽しめるような広域周遊ルートを開発するとともに、周知に努めます。

② スポーツ合宿の誘致とスポーツ交流の推進

スポーツを通じた地域間交流を目的として、スポーツ合宿の受入しやすい仕組みについて検討していきます。また、現在行われている水泳、バレー、弓道、ゲートボール、柔道、

ログイニングなどの大会を継続し、スポーツ交流を推進します。

③ スポーツ体験プログラムの周知

ノルディックウォーキングや E-bike などのスポーツ体験プログラムに磨きをかけ、発信していきます。

また、狩野川周辺のサイクリング・カヌー・鮎釣り、葛城山など伊豆 3 山ハイキングや城山クライミング、読売巨人軍長嶋茂雄ランニングロードなどの PR を行うとともに、宿泊業との連携を図ります。

④ サイクリスト受け入れ体制の推進

かわまちづくり計画と連動し、官民連携により市内外を問わず幅広い世代が楽しめるようなサイクルイベントを開催します。また、(一社)美しい伊豆創造センター(以下、「美伊豆」という。)や狩野川周辺サイクル事業推進協議会などの他団体とも連携して、伊豆半島全体をめぐるサイクリングイベントを開催していきます。また、官民連携して観光名所やジオサイトなどのビュースポットを巡りやすいようなサイクリングルートを選定します。

⑤ 延期されたオリ・パラに向けた取り組み

大会開催に向けた協調体制を構築するとともに、継続してモンゴル国柔道ナショナルチームのホストタウンとして、コロナ対策を講じた合宿受け入れ体制の整備を図ります。

また、オリ・パラ終了後も、未来を担う子どもたちを中心とした交流事業の実施を検討していきます。

5 安全で安心な旅行環境の提供

● 現状と課題

令和 2 年 1 月以降、コロナの拡大により、新しい生活様式に即した新たな観光のスタイルが求められています。当市では、伊豆の国市商工会、観光協会と連携して、コロナ防止策に取り組む事業者に対し、PR ステッカー・ポスターを提供するなど支援しています。

また、観光事業者向けにコロナ対策の講習会を開催し、感染症対策の正しい知識の普及に努めています。

今後は、関係団体と連携を図り、宿泊施設等の感染症対策や災害への備えを強化し、すべての観光客が、安心して旅行を楽しめる環境づくりを推進します。

① With コロナ・新しい生活様式に即した受け入れ体制の整備

コロナ対策を徹底し、事業所向けに正しいコロナ対策の知識を周知していきます。

また、新たな働くスタイルであるテレワークや、ビジネスと観光が融合した新しい旅行スタイルである「ワーケーション」に対応するため、宿泊施設等における通信環境整備や他業種が交流できるようなコワーキングスペースの確保など、観光地で余暇を楽しみながら仕事が出来るよう、環境整備に努めます。

② 災害に備えた避難・誘導の計画の策定

災害に備えた避難・誘導の計画について、観光協会や伊豆長岡温泉旅館協同組合を中心に検討し、避難誘導計画の策定に努めます。



6 「伊豆はひとつ」を意識した取り組みの推進

●現状と課題

伊豆半島は、富士箱根伊豆国立公園に指定されており、伊豆の各所から眺める海と富士山は、国内外の観光客があこがれる景色となっています。一方、伊豆には、自然、情景、歴史・文学、温泉等の資源の多様性があり、観光地の素材としてのポテンシャルは高く、これが伊豆の強みでもあり、多様性がゆえにまとまれないことが弱点にもなっています。

美伊豆と伊豆半島ジオパーク推進協議会は、今後統合に向けた検討がされ、伊豆半島全体で観光・地域産業に取り組む体制がさらに推進されていくことが予想されます。「伊豆はひとつ」の理念のもと、伊豆半島の魅力を国内外に広くPRするため、地域の連携をより強化し、まずは、市の観光地エリア景観計画における、農業、歴史、温泉、自然の4エリアの特性をつなぎ市内の周遊性を高め、さらに多様な資源・魅力を持つ伊豆半島全域へ展開させて滞在日数の増加につながるよう、広域での取り組みの強化が必要となっています。

① 伊豆半島全体を周遊させる取り組みの推進

美伊豆をはじめとした、各種広域団体と交通事業者等との連携を深め、周遊性を高める取り組みを強化していきます。また、令和2年11月に設立された『大河ドラマ「鎌倉殿の13人」ゆかりの地 伊豆・富士山周遊促進連絡協議会』の活動を通じて、大河ドラマを活用し、県東部、伊豆周辺のゆかりの地に点在する歴史・文化を全国に発信し、市町の枠を超えて伊豆全体でおもてなし機運の醸成を高めます。

また、市内のレンタサイクル事業者とも連携し、E-bikeを活用して伊豆半島の周遊が可能となるような、サイクル拠点、観光周遊コースづくりを進めます。

② インバウンドへの対応

案内表示・看板、WEBサイトの多言語化を進め、個人インバウンド客も安心して旅行できる環境整備に努めます。また、韮山反射炉など市内観光施設の多言語観光情報サイトの内容を更新し、発信していきます。また、公衆無線LANの普及・設置を促進し、国内外の来訪者の利便性を図ります。

③ 伊豆半島ジオパークの価値と魅力の発信

伊豆半島ジオパーク及び市内の見どころやジオサイト等について、生涯学習講座を活用した市民向けジオパーク講座や学校でのジオ出前講座などを実施し、その価値と魅力をPRし意識向上を図っていきます。また、WEBやメディア等を通じて、全国に向けてジオパークの魅力発信と普及啓発を図ります。さらに、ジオガイドによるジオツアーや旅行商品へつなげていきます。



令和3年3月策定

編集・発行：伊豆の国市観光文化部観光課

〒410-2292 静岡県伊豆の国市長岡 340-1 ☎055-948-1480